

# 伸びる神立の子



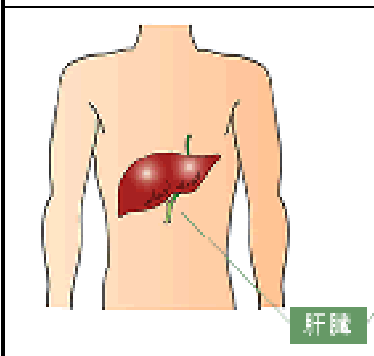
H23年10月31日  
神立小学校  
子育て便り 2

## 何気ない会話から子どもは学びます

前は、「時速60km」について、よその小学校のお話をしましたが、今回は神立小学校の6年生の話をさせていただきます。

### 「レバニラ炒めのレバーってなあに？」

先日、6年生の教室をのぞいてみたら、子どもたちが理科の問題を解いていました。「からだのつくりと働き」という単元です。問題の中に「肝臓」が出ていたので、「肝臓はレバニラ炒めのレバーだよ。」と教えてあげたら、「へえ～、知りませんでした。」と言われました。「意外に知らないんだなあ。」と気になって他の6年生のクラスの子どもたちについても調べてみました。



結果、「レバニラ炒め」、もしくは「レバー」という「お肉」については、ほとんどの子が知っていました。ところが、それが肝臓であることを知っていたのは、約100人の学年の中に5人しかいませんでした。その日いなかった子もいるでしょうから、必ずしも正確な結果とはいえないかもしれませんが、予想より少なかったです。

**知識はすでに身につけている知識をもとにして、広がっていくものです。**ある意味で連想ゲームのようなものといえます。クモの巣のような連想の網に新しい知識を引っかけて、またそれをもとにして、網を大きくして、さらに新しい知識を捕らえていきます。もともとなる知識の網が小さいと、新しい知識を身につけることが難しくなります。

また、私たちは「知識」を土台として「理解」をしていきます。言葉をかえれば「知っていること」をもとにして「わかっていく」のです。ですから、豊かな知識があるところに深い理解が生まれます。

さて、たかが「レバニラ炒め」のお話ですが、レバーを肝臓だとあらかじめ知っていた子は、授業で「肝臓」という言葉を聞いたとき、具体的なレバーの姿をイメージしたり、「あああれか」とつながったりしたことでしょう。そこに学びのスタートの差が生じてしまったことは否めません。

レバニラ炒めや焼き鳥、スーパーの精肉売り場でのちょっとした親子の会話、食卓での会話が、意外に学校での学習を支えてくれたのです。もちろん無理に教え込むことは逆効果になってしまいますが……。ちなみに、タン塩のタンがペロだということは、かなり多くの子どもが知っていました。

## 子どもを伸ばす小さなアイディア その2

### 2 学校での学びを活かすことが家庭学習の基本です

学校では国語、算数、理科、社会、音楽、図工に体育などの教科の学習、そして、友達と仲よくすることや協力すること、何事にもがんばることができることなどなど、たくさんを子どもたちに教えています。

でも、せっかく学校で学習しても、そのままほうっておいたのではなかなか定着しないものです。**学校で学んだことをさらに同じ方向性をもって家庭で補充することができたなら、学びの成果は上がるはず**です。勉強ばかりではありません。子どもたちの心を育てていくにも**学校と家庭ががっちり手を組んでいけば、必ず子どもたちはよい方向へ育ってくれるはず**です。